

# 施策評価シート

評価年度	平成25年度	事業実施年度	平成24年度	施策主管次長名	協働部次長 天野 達也	
施策番号	66	施策名	多様な文化に親しみ、ふれあえるまち		総合計画掲載頁	142
関係課名	企画政策課、協働推進課、学校教育課					

## 1. 施策の概要

施策の目的	対象	市民	対象指標名	単位	H23実績	H24実績	H25計画	H26見込	H27見込	H28見込	
			①	人口	人	58,762	59,141	61,400	62,500	63,700	64,700
			②	在住外国人	人	1,539	1,396	1,380	1,380	1,380	1,380
			③								
意図	国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化を認め合い交流したり、地域社会で共に生活していく環境を整える。				成果指標名	①	市の国際交流事業が重要だと答えた人の割合				
						②	市の国際交流事業に満足していると答えた人の割合				
						③	在住外国人の中で日本語教室に参加した割合				
						④					

## 2. 成果指標

指標	成果指標名	単位	H23実績	H24計画	H24実績	H25計画	H26見込	H27見込	H28見込
①	市の国際交流事業が重要だと答えた人の割合	%	58.3	61.3	61.4	61	61	61	61
	指標設定の考え方と把握方法	市民が市の国際交流の重要性をどのように捉えているかを、行政評価アンケートから把握する。							
②	市の国際交流事業に満足していると答えた人の割合	%	35.8	38.8	44.2	45.2	46.2	47.2	49
	指標設定の考え方と把握方法	市が行っている国際交流事業への満足度を行政評価アンケートから把握する。							
③	在住外国人の中で日本語教室に参加した割合	%	5.5	6.0	8.7	9.0	9.0	9.5	9.5
	指標設定の考え方と把握方法	外国人が生活するうえで日本語の習得は重要なものであり、日本語教室への参加者数から把握する。							
④	成果指標名	単位	H23実績	H24計画	H24実績	H25計画	H26見込	H27見込	H28見込
	指標設定の考え方と把握方法								

## 3. 施策の評価

項目	評価のコメント								
施策の成果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	国際交流事業や市内在住の外国人とのふれあいを通じて、外国文化への理解を深め、外国人との共生に努める。							
	行政	国際理解と多文化共生社会の実現のため、国際交流事業への助成、日本語教室の開催や日本語ボランティアの養成等を行なう。							
達成度評価	近隣との比較	・近隣市町については、成果指標①、②ともデータが無く比較できないが、高浜市を除く近隣市町全て、海外の都市と姉妹提携等をしており、国際交流は盛んである。 ・外国人の日本語教室の参加率については、すべてのデータはないが、近隣市町と比較してみよし市が高いのが現状である。							
	過去3年間の実績との比較	成果指標①②とも平成23年度は低下したものの、24年度の実績はいずれも回復しており、特に③については22年度、23年度と増加しておりましたが、24年度は前年度を大きく上回る数値となっている。これは在住外国人が減少したこともあるが、企業等への働きかけにより教室参加者が増加したことによると思われる。							
現状と課題	◆みよし市には現在、約1400人の外国人が在住しており、定住化傾向が進んでいるが、景気の動向により増減数の幅が大きくなる場合がある。 そのため、定住者や新たに転入してきた外国人が、日本人との間に発生するトラブル等の問題について相互理解を深め解決するとともに、一市民としてまちづくりに参加できるような機会の提供が今後必要である。								
今後の取り組みの方向性および次年度の取り組み	◆現在は、外国人向けの日本語教室や日本語指導をいただくボランティアの養成、友好都市(コロンバス市)との交流事業を実施している。 ◆今後は、友好都市交流事業を通じ、子どもたちがより一層国際社会に興味を持つよう姉妹校同士の作品交換、メール交換などの交流の継続や多くの市民が外国人と触れ合ったり、在住外国人が地域社会で共に生活できる環境を整えるため、地域とのかかわり方やマナーなどの講義も含めた日本語教室の開催を行っていく。								
	(26年度の取り組み) 外国人のための日本語教室、外国人通訳・翻訳サポート、日本語ボランティア養成								
市民意識	重要度	低い	満足度	低い	平成24年度市民アンケート調査による				